

まきば

2023年 7月 第99号 日本キリスト教会帯広教会

【巻頭言】

竹井剛牧師就職式での勧告

2023年5月4日

「羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる」

旭川教会牧師

北村一幸

ヨハネによる福音書 10章 7～16節

10:7 イエスはまた言われた。「はっきり言っておく。わたしは羊の門である。10:8 わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。10:9 わたしは門である。わたしを通して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。10:10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。10:11 わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。10:12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。——10:13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。10:14 わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。10:15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。10:16 わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。

二人の作家を紹介しましょう。聖書を読み、最後までそれを離さなかったといわれる芥川龍之介ですが、運命は偶然よりも必然ということ。「侏儒の言葉」で触れていますし、クリスチャン作家椎名麟三は、偶然性と思える事柄が必然の出来事である、というようなことを「永遠なる序章」の中で語っています。共通の言葉にしますと、「この世に偶然はなく、あるのは必然という摂理」だということです。

竹井剛先生がかつて13年間の小樽時代に仕えた日本基督教団小樽教会と日本キリスト教会小樽シオン教会は、同じ富岡町内それも極く近い場所にありました。この度、日本キリスト教会へと入会する決断を与えられた時、仕えていました日本基督教団長崎滑石教会と、日本キリスト教会の長崎伝道所はこれまた同じ滑石町内なのでした。不思議です。このような不思議な実例、出来事、導きがこの度、たくさんあるのです。ここで、一つ一つを挙げることは致しませんが、実に多くの偶然とも言える事柄が重なり、そのような事象を単純に偶然の重なりと単純に片づけてしまうことが出来ません。ここまでの不思議な重なりを、思い考えて祈って参りますと、そこには、偶然ではなく、必然があるのではないかとの考えに導かれます。竹井先生も思いめぐらし、考え、祈って来られたことでしょう。私もそうでした。また帯広教会の方々も一人の牧者を迎えるにあたって、神のみ旨を尋ね求め、祈りを経て決断に導かれたことでした。北海道中会もこの図りがたい道筋を神のみ

旨と捕らえ、判断のうえ受け入れたのです。ここには、人の恣意的思いではなく、神の導き、神のみ旨の実現といったことがあったのです。偶然ではなく、神のはかりごと、必然が現わされたのです。

さて、4月は雪解けと共に地表は無機質な光景から、緑燃える命の光景に替って行きます。北海道の美しい季節の始まりです。長い厳しい冬が終わり、地面が現れ、花々が一斉に咲き乱れます。私たちの住む世界は、萌える新緑で覆われます。

有名な詩編23編には、「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく、わたしを正しい道に導かれる。」と詩われています。更に、詩編の詩人は詩います。「死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れぬ。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖、それがわたしを力づける。わたしを苦しめる者を前にしても、あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ、わたしの杯を溢れさせてくださる。命のある限り、恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り、生涯、そこにとどまるであろう。」何と、美しく癒され、慰められる場所、また大いなる恵みに満ち溢れる場所でしょうか。主の家に、確かな信仰により帰っては生涯とどまりたい、そのような希望を詩った美しい詩が詩編23編であり、主を信じる多くの人の愛読詩となっているのです。

その詩編23編を具現化、具体化したような出来事が、起こります。主イエスご自身がここにおられ、人々に語られています。「羊の囲い」のたとえ、に続いて、「主イエスは良い羊飼い」のお話が続きます。

羊が囲いの中にいる時は、囲いに門があり、そこからだけ出入りが出来ました。門を通らないで入ろうとする者は盗人であり強盗、門から入る者は羊飼いです。羊飼いは一匹一匹の羊の名を呼び、羊たちも羊飼いの声を知っており、その羊飼いだけにはついて行く、そのような関

係にあることを、ファリサイ派の人々に、イエスは話されたのですが、彼らはまったくその意味を解することが出来なかったのです。

主イエスは、話を進められます。今度は、私は牧柵の中への入口となる門である、羊の門である、と繰り返してお語りになります。「わたしを通して入る者は救われる。」のだとも。偽の羊飼いの本性は盗人であり強盗であり、彼らは盗んだり、屠ったりして羊の命を奪う、しかし、本当の羊飼いは命を大切に豊かに生かしめてくださるというのです。その本当の羊飼いと、わたしイエス自身なのです、と言われます。

「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」(11節)美しく、心に届く主の言葉です。皆様のご家庭で、犬を飼っておられるところがあるでしょうか。警察犬などとして役に立つシェパードという種類の犬があります。このシェパードは牧羊犬と言われます。人の仕事の一部を担っては、人の世界で役にたち、人に家族に愛されている犬なのです。ところで、「アイムグッドシェパード」は「わたしは良い羊飼いである」(11、14節)でしょうし、「ロード・イズ・マイ・シェパード」は、先ほどの詩編23編の文語訳聖書では「主は我が牧者なり」となります。おわかりでしょう、シェパードという言葉は犬の種類の名ですけれども、主イエスのわたしたちへの役割、有用性といった点から、大事な大事な言葉なのです。シェパードつまり羊飼いは羊を導き、緑の草の場所、また水辺に連れて行き命を豊かにさせてくれる者であり、また羊を危険な場所から遠ざけ、狼などから羊たちを守る働きをしてくれるものなのです。

本当の羊飼いではなく、偽の羊飼いつまり仕事に忠実でない使用人、雇人(やといにん)の羊飼いは、狼が来るのを見たら羊を置き去りにして逃げ出してしまいます。その結果、狼は羊の命を奪い、羊たちを追い散らすでしょうから、偽の羊飼いは、いざという時には役に立たないものだということが明らかになります。ところで、本当の良い羊飼いは羊たち一頭一頭の名前を呼んで(3節)くれるだけでなく、一頭一頭の羊をよく知っています。羊たちは大事にされ

愛してくれる羊飼いの声を良く聞き分け、その優しい羊飼いのことを良く知ることになります。皆さんの家庭のペット、犬であれ猫であれ、小鳥であれ、名前がありますね、家族はペットの名前を呼び、ペットは家族一人一人の声を知っており、その声に導かれ、その声に従うのです。そこには信頼があるのです。

イエス様は、幼いころから聖書、それは旧約聖書ですが、親しんでおられたようですし、生活の中で、生涯の様々な機会に、聖書の言葉が心の中から浮かび上がって来ることがあったのでしょう。後には十字架上で、詩編 22 編の言葉を反復されては神様から与えられた御自分の運命を思い、務めへの確信を覚えられていたであろうことがありました。「わたしの神よ、わたしの神よ なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず 呻きも言葉も聞いてくださらないのか。」(詩編 22 編 2 節)

今日のみ言葉は、ファリサイ派の人々、ユダヤの人々にイエスが語る時に、昔から親しんだ預言者エゼキエルの言葉が思い浮かばれたのだと思われま。エゼキエルの時代、もはや己の為にしか行動しない当時の偽りの牧者に替わって、正しい一人の牧者を起こす(直接的には、ダビデのこと)との牧者の現れ出でるといふ神の預言の言葉でした。「わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う」(エゼキエル書 34 章 15、16 節)。この言葉によって、主イエスは御自分が真に本当の羊飼いなのだとの思いを自覚され、人々に語る者となられたのでしょ。「わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声

を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。」(14~16 節)

本日、教師竹井剛先生の、帯広教会牧師就職式が行われています。牧者の誓約、そして教会員の方々の誓約によって、互いに仕え合うことになります。まずは神に仕える。牧者は神と教会に仕えます。牧者は教会に属する人々に仕えます。信徒も主なる神に、そして教師にも仕えます。互いに仕えあう関係が、この教会の中で生まれる時、教会は世と世の人々にも仕えることが出来るのです。

竹井先生の肩書は「牧師」ですが、名刺を作り、もし英文表記をした場合、Rev.と印刷しますのでしょ。実は、「牧師」には英語では3つの表記があります。1、Reverend リヴァラント(聖職者・宗務者) 2、Minister ミニスター(管理者・教師・牧師) 3、Pastor パースター(牧師・牧会者)です。それぞれの役割に特徴があり、様々な務めがあることは言うまでもありません。

第1の Reverend は宗教法人などの役職、社会での職種という点での肩書です。宗教者として大事な務めを負っています。

第2の Minister は会堂の管理がすぐ様ありますし、地区や中会などに仕え奉仕する役も先々には多々あり、大いに期待もしたいものです。

第3の Pastor ですが、竹井先生は、まずはこの帯広教会に所属する羊を良く知り一匹一匹の羊の名を呼んで、羊を緑の野に、そして水の畔に連れて行く必要があります。これからは更に、囲いの外にいる羊たちをも招き入れる努力を大いにして行かねばなりません。あのベートーベンの「田園」は英語では Symphonie Pastorale といいます。田園、羊の群れが憩うことが出来るのは、牧者が牧する務めを忠実、着実に果たしている時、導いてくれるその場所においてです。その時、羊たちは最も生き生きと元気になっていることでしょう。多くの人々が、緑の牧場(まきば; 口語訳聖書) 青草の原(新共同訳聖書)に憩うことが出来る帯広教会であられることを願っております。

【特別寄稿】

「神のご計画」

牧師 竹井 剛

「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。」箴言16章9節

この度、日本基督教団を退任し日本キリスト教会へ入会し、帯広教会へ着任いたしました。このことは私自身にとって思いがけないことであり、予想だにできなかった展開でした。なぜ日本キリスト教会に神は私を招かれたのか、そのことを考えると不思議な気持ちになります。召命を受け、献身し、日本基督教団の教師としてたてられ、教団の教会に仕えてきました。教団は長老主義、会衆主義、監督制を背景としたさまざまな立場の教会があり、幅広く豊かであると言えます。しかし教団が、信仰告白によるキリストの体なる教会ととらえるならば、なかなか一致は難しく、課題が生じます。私は、教団が1955年に制定した日本基督教団信仰告白を土台として福音が宣べ伝えられ、聖礼典が執り行われ、教会形成が営まれていくことにこだわった一人でした。ところが昨年、今年の3月で仕えている教会の働きを終える予定となっていた中、主なる神は北村一幸先生（旭川教会）を通して日本キリスト教会帯広教会をお示しになりました。主が教団の教師としてこの僕をお立てになったと固く信じていた私は、最初は正直戸惑いを覚えました。ですから「イエス様、このことはあなたの御心でしょうか」とイエス様に問い、祈りました。その祈りの期間に、振り返ると、今まで数々の日本キリスト教会の牧師先生や信徒さんとのかわりがあったことを思い起こしたのです。

私が20才頃に北海道への憧憬、酪農家への夢があり、東京を離れ北海道の牧場に実習に行ったことがありました。そこへ行く途中の汽車の中で向かい合わせに座っていた初老の男性から話しかけられました。横殴りの雪を車窓から見ながら、その方の語る深い人生談義を感動的に聞き入り、若い心に益々希望を膨らませたものでした。そして名刺をいただき、後に日本キリスト教会の札幌にある教会員であることを知

りました。また私が神学校時代に信仰の危機を通らされた時、一人の牧師との出会いがあり、その先生を通して私たちの信じる神はまことに生きておられるとの恵みを教えられ、信仰の喜びと力を与えられたのです。後にこの牧師が北村一幸先生の母教会の先生であることを知らされました。そして北村一幸先生との出会いです。私が日本基督教団小樽教会で牧会をしていた時、北村先生がすぐ近くの日本キリスト教会小樽シオン教会でお仕えていらっしゃいました。100メートルほどの距離にある近隣の教会でした。牧師としても、また双方に幼稚園がありましたから幼稚園の関係においても親しく交流をさせていただきました。北村先生は私にとってまったく違いを感じない一致した信仰観をもって祈り合い、語り合うことのできる先生でした。また北海道中会の教師である河野行秀先生は日本基督教団江別教会の併設幼稚園の理事長、園長を私の後任として引き受けてくださいました。他教派の牧師が園の管理職になることは通常では考えられないことでしたが、このことも本当に神の力強い導きでした。その時に河野先生は、冗談めかして「トレードだね」とユーモアに語っていましたが、聖霊が先生を通して暗示していたのかもしれません。

まだほかにも日本キリスト教会の牧師や信徒さんとの出会いがありますが、上記のように一つ一つの出会いを思うときに日本キリスト教会への導きを感じ始めたのです。そしてアブラハムの召命を受け、自分の故郷を離れて神の示す約束の地に旅立つ場面を読みました時に、主なる神の強い語りかけと促しがありました。アブラハムにとって故郷を離れることは、それは受け入れがたいことだったと思います。故郷にこだわり、固執するアブラハムに「あなたは生まれ故郷、父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい」と神は語られました。故郷にこだわらず、神が示すところへ行きなさいとの促しを受けたアブラハムはこだわりを捨てて、「行き先も

知らずに」神の言葉を信じて旅立ちました。この御言葉により私は、神が、「教団へのこだわりを捨て、私が示すところへ行きなさい」と語っておられると受け止め、信じ、信仰によって委ねることができたのです。するとどうでしょうか。聖霊の流れの中で、一つ一つの扉が開かれ

るようにして導かれていきました。そして日本キリスト教会帯広教会の牧師として招聘を受け、5月4日に就職式を終え、今、帯広教会の皆様と新たな歩みが始まりました。すべては主なる神のご計画であり、聖霊の導きです。

Soli Deo gloria (ただ神にのみ栄光！)



竹井剛（たけい つよし）と家内（久美子）とテリーです。よろしくお願ひいたします。テリーの名前をアブラハムにしたかったのですが、家族に反対されテリーになりました。

【教会員の声】

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。」(テサロニケ― 5 : 16~17)

長老 高林喜雄

2023年5月4日帯広教会で竹井剛先生の牧師就職式が行われ、この小さな群れにも多くの方の祈りうちに牧師があたえられました。

無牧師となった帯広教会の指導教職、小会議長になってくださいました北村一幸先生(旭川教会牧師)より2022年6月の小会で突然、次のようなお話が、「今は長崎で日本キリスト教団の教会で牧師をされている先生ですが、この教会でこの先生をお迎えすることを検討してはどうか」というものでした。出席されていた長老、執事は突然のことで皆様きょとんとした顔をされていました。そして同時に頭の中では「この小さな群れでは牧師招聘は無理であろう」と私を含め皆様同じような思いが頭の中を巡ったと思われま

す。それからしばらくの間、長老、執事がそれぞれに色々思い巡らす姿が見受けられました。私も北村一幸先生より受けた謝儀のアドバイスなどを参考にそれなりにいろいろ検討してみました。

月日が経つうちに少しずつ長老、執事の思いが、牧師招聘ができるのかどうかからどうしたら牧師招聘ができるのかに変わって行った様に感じられました。さらに時間が経ち私は献金についても、謝儀についても詳細な検討をいくら繰り返しても切りがないという結論に至りました。ほかの長老、執事のお考えを聞いていても同じような思いであるように感じられました。それは、すべては主が与えて下さいます道標に沿って歩いて行こうに変わったのです。御言に耳を傾け主が与えて下さる景色に向かって歩き始めたのです。

気が付くと小会の議論は牧師招聘するにあたり教会に不足しているものは何か、どうしたらその不足を補えるかに多くの時間を割くようになりました。しかし超えなければならぬハードルが次から次と出てくるのです。小会の議論

の中で私はいつもこの聖句が心にありました。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」(マタイによる福音書 7:7)

そして、あの6月の小会から4ヶ月後の2022年10月30日の礼拝において竹井剛先生を説教者としてお迎えできました。更に4ヶ月たった2023年3月21日北海道中会で牧師招聘願いが承認され、北村一幸先生より5月4日牧師就職式とお聞きした時は、新たな緊張感と「もう、週報作らなくてよくなるのかな」という安堵感が入り混じりました。

無牧師の1年間を振り返りますと不安に包まれた中で表題の聖句と共に歩んでいたような気がします。

帯広教会無牧師2022年4月から2023年3月までの1年間、北村一幸先生には第4週の説教者と指導教職、小会議長として、畑知佳先生(遠軽教会牧師)には8月第1週の説教者として、畑達朗先生(北海道中会所属教師)には8月以外の第1週の説教者として、森下一彦先生(北見教会牧師)と森下真裕美先生(佐呂間教会牧師)には交代で第2週の説教者として、千葉保先生(釧路教会牧師(当時))と小野寺泉先生(富良野伝道所牧師)には交代で第3週の説教者として、河野行秀先生(江別キリスト教学園認定こども園若葉幼稚園理事長)には4月17日のイースターでの説教者として来ていただきました。また帯広教会に牧師を派遣してくださいました教会の礼拝では、教職に応援をさせていただいたり、長老が説教者をなさって下さったり見えないところでも多くの教職、教会員に支えられました。

お世話になりました教職、教会員の皆様にご紙面をお借りいたしまして、感謝と御礼を申し上げます。

【教会日誌】

- 1月 9日(日) : 2023年度第1回臨時小会
議長 北村一幸(旭川教会牧師)
- 1月 22日(日) : 2023年度定期総会
議長 北村一幸(旭川教会牧師)
- 3月 20日(月) ~ 3月 21日(火・休) : 第72回定期中会
- 4月 9日(日) : イースター記念礼拝
- 5月 4日(木) : 竹井剛牧師就職式
- 5月 7日(日) : 第18回教会建設を覚える日
- 5月 30日(日) : ペンテコステ記念礼拝

【行事予定】

- 7月 23日(日) : 90周年教会創立記念日(1933年7月23日)
- 8月 6日(日) : 世界の教会を覚える日
- 8月 21日(月) ~ 22日(火) (予定) : 中会伝道協議会
- 9月 (予定) : 道東地区修養会
- 9月 16日(土) ~ 18日(月・休) : 全国青年の集い 会場: 北海道 札幌
- 10月 18日(水) ~ 20日(金) : 第73回日本キリスト教会大会 於) 柏木教会
- 10月 29日(日) : 宗教改革記念日礼拝(日本キリスト教会神学校日)
- 11月 5日(日) : 召天者記念礼拝 音楽集会(予定)
- 12月 3日(日) : 待降節(アドベント) I
- 12月 24日(日) : クリスマス記念礼拝 祝会(予定)



発行元：日本キリスト教会帯広教会
発行日：2023年 7月 9日
発行：「まきば」編集委員
発行責任者：竹井 剛